

科目	ロジスティクス	担当	野村 淳一	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

企業に迅速な顧客対応が求められる現在、物的流通から進化したロジスティクスは、その発展型であるサプライチェーン・マネジメントと共に、産業の基本的インフラストラクチャとしての重要性を増している。この科目において受講生は、ロジスティクスにおける理論的基礎と現代的課題についての知識を修得できる。また、演習により最適な経路を探索することなどを通して、理論を実践するための実践的な技能を修得できる。

本科目の到達目標は、身につけた知識を用いて、現代社会におけるロジスティクスの現状を理論に基づいて説明し、適切に解釈できることである。

【履修注意】

■パソコンを毎回持参すること。

■受講上、事前に表計算ソフトの操作方法や基礎的な統計学の知識、生産システム、情報システムに関する知識を身につけていることが望ましい。

【評価方法】

定期試験(50%)、毎回課す演習課題(50%)に受講姿勢を加味し、60%以上の評点を得た学生を単位認定する。

なお、6回以上欠席した学生は単位認定しない。

【試験について】

講義内容に関する筆記試験を行う。

■再試験対象者の条件:定期試験受験後の評点が50%以上60%未満の者

【予習・復習】

毎回、授業時間外に取り組む課題を課す。講義内容の復習および受講生自ら調査する内容となるため、毎回90分以上、課題に真摯に向き合うことで、自ずと講義の予習・復習となる。

【教科書】

購入教科書なし。

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	ロジスティクスの定義	ロジスティクスと物流、物流品質、ロジスティクス戦略
2	ロジスティクスの目的と管理範囲	ロジスティクスの目的、5R、価値連鎖モデル
3	ロジスティクスの管理サイクル	ロジスティクス戦略、管理指標、達成評価、CSF
4	物流の基礎	物流の要素機能、運搬活性示数、動脈物流、静脈物流
5	グラフ理論	グラフ、ノード、エッジ、ロジスティクス・ネットワーク
6	最短経路問題(1)	1対1最短経路問題、P2PSP、1対全最短経路問題
7	最短経路問題(2)	時間に関する最短経路問題、費用に関する最短経路問題
8	前半のまとめ	学習内容のまとめと応用
9	サプライチェーン・マネジメント	サプライチェーン、SCM、トリプルA、ブルウィップ効果
10	SCMの経営手法	VMI、ECR、QR、制約理論、ダブル・マージナリゼーション
11	企業事例	ヤマト運輸、サービスレベル、リードタイム
12	地域事例	愛知県、名古屋市、名古屋港
13	物流システム管理(1)	DC、TC、PC、SP、DP、公共物流拠点、クロスドック
14	物流システム管理(2)	一括物流、共同配送、トレードオフ
15	環境問題と国際物流	グリーン物流、モーダルシフト、国際物流網
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ